

一年次の導入教育が学生の希望学科選択におよぼす影響

名城大学 理工学部建設システム工学科 ○ 正会員 石川 靖晃
正会員 松本 幸正

1. はじめに

名城大学理工学部では、従来、入学試験は学科ごとに実施されていた。ところが、各学科の内容を十分理解したうえで、自分自身の本当の希望や適性に基づいて入学する学生は、むしろ少数派であったことが最近の調査でわかってきた。そこで、平成16年度から、本学理工学部は、9学科を3つの“系”に大きくくりにして募集する系入試を採用することになった。同時に、平成16年度のカリキュラムの見直しを行い、各学科内容を分かりやすく紹介する授業を設けたり、研究室を開放する機会を設けるなど、いわゆる1年次に対する導入教育を従来のカリキュラムよりも手厚く実施することにした。

本報告では、まず、建設システム工学科で実施した導入教育内容について紹介し、次に、導入教育で実施したアンケートの結果を基に、導入教育が学科配属に与えた影響について簡単に分析を行った。

2. 学科配属システムの概要

平成16年度から、本学理工学部では、数学科、エレクトロメカニクス系、情報デザイン系の3つの系を募集定員として入試が実施されている。入学後、学生は1年間これらの系に所属し、2年次に進級する際、図-1に示すような進路で学科配属されることになる。学科配属の方法は2種類ある。ひとつは、科の教育方針に対する学生の適性を面接やプレゼンテーションなどで評価することにより学科配属の可否を決定する方式（総合評価方式）である。もうひとつは1年次の成績順位から学科配属を決定する方式（学力評価方式）である。総合評価方式は12月の中旬に実施され、後期定期試験後、可否の発表がされる。学力評価方式は、1年次後期試験後、総合評価方式合格者および進級不可能者を除いた全ての学生を対象に実施される。

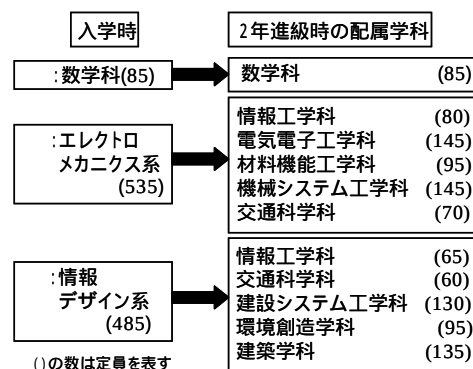


図-1 3つの系と配属学科との関係

3. 建設システム工学科による一年次導入教育の概要

1年次で実施される導入教育として、理工学概論、研究室開放、現場見学やものづくりなどの実感教育がある。建設システム工学科では、特に、理工学概論に力を注いで導入教育を実施した。

理工学概論は、各学科内容を紹介する講義科目であり、かつ必修である。理工学概論が不合格になった場合、学生は2年次に進級できない。理工学概論は、前期2コマ、後期3コマ計5コマ開講される。情報デザイン系は5学科に進級することが可能であるため、1学科あたり半期1コマ担当することになる。学生側からみると5学科分全て受講することになる。授業クラスは全部で8クラスであり、一クラスあたりの学生数は70名程度である。建設システム工学科における講義内容は、全体的な学科紹介の後、各専門分野の教員が一クラスあたり1回ずつ、DVDやビデオ、プレゼンテーションを用いて視覚的に分かりやすく専門分野の内容を紹介するものであり、一クラスあたり13名の異なる専門分野の教員が講義を担当した。

4. アンケート結果の分析

前期と後期のそれぞれで、理工学概論の最終講義時にアンケートを実施した。アンケートは記名式で、入学時の希望学科や建設システム工学科配属に対する思い、理工学概論受講後の希望学科や本学科配属に対する思い、理工学概論の授業内容などについての設問で構成されていた。回答者数は前期254名、後期235名で、情報デザイン系のほとんどの1年生が含まれている。

キーワード 導入教育、学科選択、系入試、理工学概論、希望学科

連絡先 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501 Tel (052)838-2343

表-1 に、入学時の第一希望学科と、理工学概論を受講後の第一希望学科とをクロス集計した結果を示す。表から、入学時に本学科を第一希望とする学生は 36 名と、土木の不人気を反映して 5 学科中最低だったものが、理工学概論を受講後には 66 名まで増加していることがわかる。また、入学時に本学科を第一希望としていた学生は、概論受講後もほとんどが希望学科を変更しない一方で、他学科においては、受講後に第一希望学科を変更する学生が現れ、本学科へ第一希望を変更した学生も幅広く存在していることがわかる。

表-2 に、本学科へ入ることに対する思いを入学時と概論受講後でクロス集計した結果を示す。「絶対に入りたい」と思う学生は 24 名から 38 名に、「どちらかと言えば入りたい」と思う学生は 52 名から 104 名に増加している。また、入学時に否定的な思いだった学生の中にも、概論受講後には肯定的な思いに変わっている学生も見られ、本学科の理工学概論の効果が表れていると言える。

理工学概論の中で、どの分野の話が印象に残ったかを複数回答形式で尋ねた結果が図-2 である。図から、「都市・交通」、「橋」、「災害」の順で、1 年生の印象に残っていることがわかり、これらの分野の話が本学科のイメージ改善に結びついたように思われる。図-3 には、印象に残った分野ごとに集計した本学科配属に対する思いの回答割合を示してあるが、この図から、「測量」、「土・地盤」を印象に残ったとする 1 年生は、本学科に「絶対入りたい」、「どちらかと言えば入りたい」と答える割合が高く、これらの分野の話をより多くの学生に印象付けることができれば、さらに多くの第一希望学生を獲得することができると思われる。

5. おわりに

一年次における導入教育、特に建設分野の内容をわかりやすく紹介する講義は、学生の学科希望に良い影響をおよぼすことがわかった。今後もこのような調査を継続的に推し進めながら、建設システム工学科を希望する学生を一人でも多く増やしたい。

本報告では、名城大学理工学部建設システム工学科教室にて実施したアンケートデータを、教室の許可を得て使用した。ここに謝意を表します。ただし本報告の内容は、全て著者ら個人の見解に基づくものであることを付記する。

表-1 入学時と理工学概論受講後の第一希望学科の関係

入学時 \ 受講後	A 学科	B 学科	建設システム工学科	C 学科	D 学科	合計
A 学科	92	4	5	4	2	107
B 学科	0	32	5	0	3	40
建設システム工学科	0	0	35	1	0	36
C 学科	2	0	1	40	0	43
D 学科	0	3	20	12	206	241
合計	94	39	66	57	211	467

表-2 入学時と受講後の本学科配属に対する思い

入学時の思い \ 受講後の思い	絶対に入りたい	やや入りたい	どちらでもよい	やや入りたくない	絶対に入りたくない	合計
絶対に入りたい	20	1	1	1	1	24
やや入りたい	6	35	9	2	0	52
どちらでもよい	10	50	107	15	1	183
やや入りたくない	2	14	64	62	9	151
絶対に入りたくない	0	4	12	25	28	69
合計	38	104	193	105	39	479

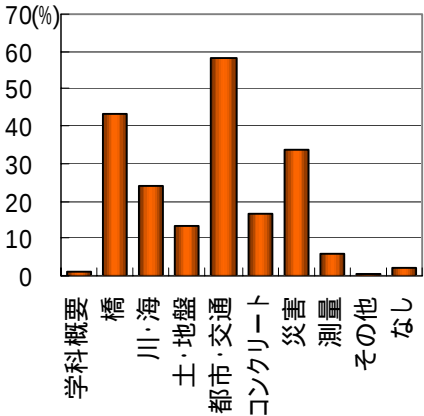


図-2 印象に残った分野

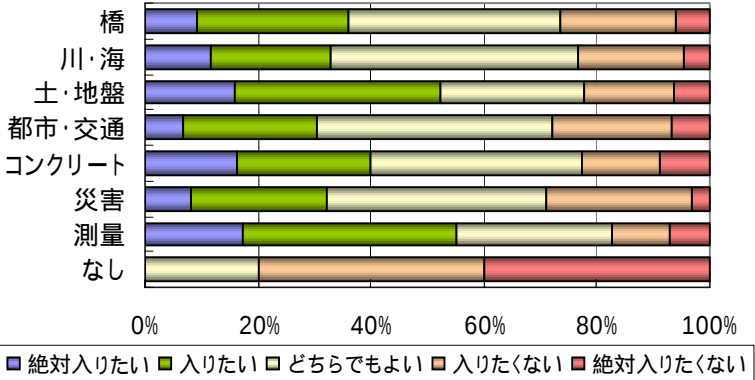


図-3 印象に残った分野ごとの本学科入学に対する思いの割合